

# 選定種の解説項目と内容

## 1. 構成

選定種の解説は、対象分類群ごと、カテゴリー区分ごとに掲載した。まず、分類群ごとに、分類群についての概要や選定の概要などの解説を行い、次に選定種ごとの解説を記載している。なお、参考文献については分類群ごとに、執筆者名については各選定種ごとに一括して巻末に掲載した。

## 2. 種ごとの解説項目と内容

### (1)動物群名

目名と科名を記載した。

### (2)種名(亜種名)

和名と学名を記載した。学名については、命名者、命名年も含めて記載した。

### (3)カテゴリー区分

- ①鳥根県 鳥根県における評価区分を記載した。
- ②鳥根県固有評価 鳥根県における固有評価区分を記載した。
- ③環境省 環境省第4次レッドリスト(2012及び2013)のカテゴリー区分を記載した。

### (4)写真掲載ページ

写真の掲載ページを記載した。

### (5)選定理由

選定評価した理由を記載した。

### (6)概要

形態、生態、国内分布などを記載した。

### (7)県内での生息地域・生息環境

県内での生息地域は、できるだけ広域な名称や地形名及び市町村名を使用するが、生息場所が特定される地名等の使用は極力控えた。

例：県西部、隠岐諸島、宍道湖、松江市など

#### ①表について

生息地域及び生息環境を表で表した。

表中において、生息地域の区分は、別図のとおりである。

生息環境の区分のうち、山地、里地、平地の区分は下記のとおりとした。

山地地域 = 人口密度が50人未満、林野率が80%以上かつ耕地率が10%未満の地域。ただし、この条件に該当する場合でも、地形分類が丘陵地、台地、低地に該当する地域は里地とする。

里地地域 = 山地地域と平地地域の間位置する地域。

平地地域 = 人口密度が300人以上かつ林野率が50%未満の地域。ただし、この条件に該当する場合でも、地形区分が山地、山麓に該当する地域、または標高100メートル以上の地域は里地とする。

また、生息環境の区分は、下記のとおりとした。

森林 = 樹林地帯。林縁を含む。

農地 = 水田、畑地等。休耕田、水路等を含む。

河川 = 河川。河川敷、ヨシ原等を含む。

湖沼 = 湖、池、沼、湿地等。岸辺、ヨシ原等を含む。

なお、生息環境の区分は分類群、選定種の特性により、必要に応じて付加して表示している。

例：地中、崖地、洞窟、海上など

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
	△	○	◎	○																		

<表中の記号について>

- ◎ = 数少ない繁殖地・群生地があるなどの重要な情報がある。
- = 生息の確認記録がある。
- △ = 生息記録はないが、生息の可能性がある。生息記録はあるが、古いかきわめてまれな確認例。
- × = 絶滅・野生絶滅種のかつて確認地点。

## ②分布図について

基本的には、絶滅危惧（Ⅰ類及びⅡ類）について、分布図を表示している。

生息地を2次メッシュ（約10km四方）により表示している。

表示している生息地については、執筆者が既存の情報を整理確認し、生息が認められるメッシュを表示したものである。したがって、表示されていないメッシュについても、今後の調査により生息が確認される可能性がある。

ただし、次のような場合には、分布図を表示していない。

- ⑦分布図を表示することにより、盗採等の危険が生じる種。
- ④県内の分布を把握するに足りる十分な情報がなく、一部の確認地域を表示することにより、分布域について誤解を招くおそれがある種。

## (8)存続を脅かす原因

選定種の存続を脅かす原因を簡潔に記載した。

## (9)特記事項

特に記すべき必要がある事項について、随時記載した。

